

組合に相談しよう
不払い相談、融資・税金相談、教育資金、サラ金、生活保護、社保未加入問題…
練馬支部 03-3825-5522

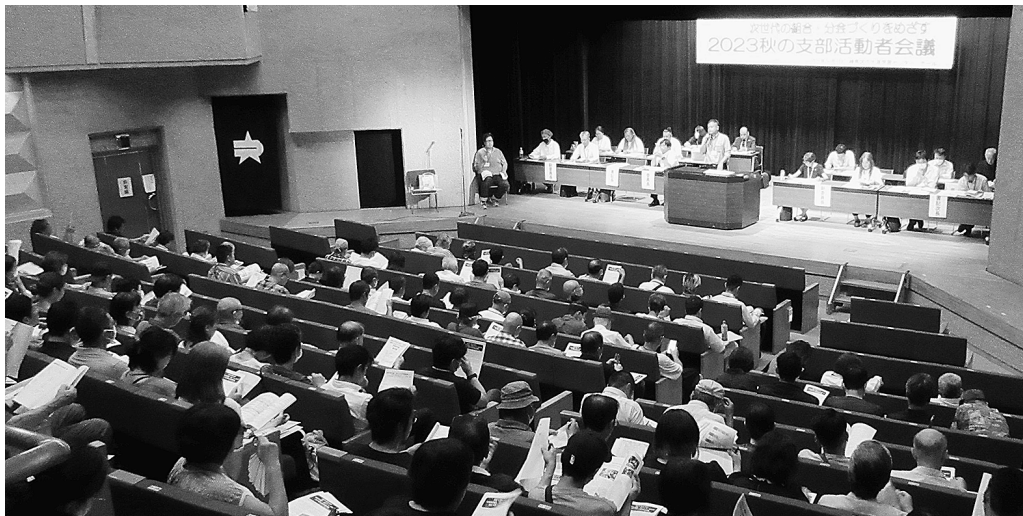
けんせつ北部

定価三十円

購読料は組合費に含まれています。

発行所
東京土建一般労働組合
城北ブロック会議
東京都豊島区西池袋 5-22-15
板橋 (3963) 5325
練馬 (3825) 5522
豊島 (3986) 2471
北 (3902) 7121
発行人 代表者 川合 正人
発行日1日、9日、17日、25日

2023支部活動者会議 支部65周年へ「次世代の組合・分会づくり」めざす



参加者の過半数が50代以下の働き盛り世代

9月3日、練馬区生涯学習センターホールで2023年支部活動者会議をひらき、全体173人、分会からは全分会142人が参加しました。

今回の活動者会議は、来年の支部65周年に向け「次世代の組合・分会づくり」がテーマ。50代以下の次世代枠として分会2人を設けたのははじめて、分会枠(分会3人・事業所枠(分会1人)も含め50代以下の参加者が全体で72人と分会参加者の50%を超え、テーマで画期的な参加者の顔ぶれになりました。

議では、池田書記長が基調報告。この間の国交省の提言も紹介しながら賃金・単価の確保を柱に今後の建設業が変わっていくべき方向性と、組合が果たすべき役割を提起しました。また、私たちの仕事と暮らしにかかわるインボイス・大軍拡増税・マイナンバー制度・保険証廃止に反対する運動と、CCUSの推進・住宅ター・組織強化など当面する組合運動を旺盛にすすめようと呼びかけました。

このあと、3つの分会が経験報告、「働き盛り世代の役員登用の経験」(学園分会)、「働き盛り世代への世話焼き活動を柱に地道な分会・群つくり」(谷原台分会)、「事業所ぐるみの分会行事への参加の経験」(富士見台分会)について、それぞれ報告しました。



パネルディスカッションでは6人の仲間が思いを交流しました



参加者みんなが団結
カンパロー

働き盛り世代、事業所が率直な思いを語る

分会経験報告を受け、今回の活動者会議では、次世代の組合・分会づくりに向けた討論の新しい試みとして、「働き盛り世代・事業所の結果をめぐって」をテーマに組合員6人によるパネルディスカッションを実施。分会の立場から岡嶋分会長(中村)、豊原執行委員(石神井)、働き盛り世代から中山執行委員(田柄)、今成執行委員(学園)、事業所から小谷執行委員(早宮)、斎藤事業所対策副委員(富士見台)の6人が、分会の立場から次世代をどうつくるか、働き盛り世代からは組合に参加したきっかけや役員を引き受

家族みんなで参加しよう 2023年三三運動会

[日時] 10月8日(日)
午前9時30分～午後3時予定
[場所] 都立光が丘公園陸上競技場
[主な競技(予定)]
●徒競走(子どもから大人まで年代別で行います)
●分会対抗の玉入れ、大なわとび、リレー、ピンポン玉リレーなど、
●借り物競走
●閉会式では豪華景品が当たる大抽選会も
*問い合わせは練馬支部まで

秋の拡大月間はじまる インボイス分会相談会も実施

秋の拡大月間ははじまりました。支部全体では、秋の月間目標228人、年間目標349人をめざします。①日曜行動日を利用して分会でのインボイス説明&相談交流会(9月24日と10月22日)を軸にインボイスで困っている仲間



けた率直な思いが語られ、事業所からは社員を含めて組合活動に参加している理由などがリアルに語られました。午後、次世代枠の分会2人が参加する第1分科会、事業所枠1人が参加する第5分科会と、産

業対策(第2分科会)、国民的諸課題(第3分科会)、組織強化・後継者対策(第4分科会)の5つの分科会を実施。各分科会では、グループ討論やアンケートの実施など、参加者の発言を促し、声を集める工夫と運営が行われました。分科会終了後の全体会では、原水禁世界大会に参加した岡上誠さん(上石神井)、中澤裕美さん(南事業所)、今津書記部長が秋の拡大月間の方針を提起しました。最後に、池田書記長が活動者会議の討論のまとめを行い、三角副委員長の団結がんばろうで幕を閉じました。

支部活動者会議 特集号

2・3面 分会経験報告(要旨)、パネルディスカッション(概要)、参加者の感想から
4面 原水爆禁止世界大会参加報告(要旨)

活動者会議での3つの分会経験報告(要旨)

学園分会 書記長 徳島 智津代さん



「ゆっくりと、ただししっかりと」

働き盛り世代は仕事・家庭もあって、分会や群の活動を敬遠しがちです。私も他の分会役員もその時は組合からやや離れていたことから、後輩には「できるときに協力してくれればいい」との思いが強いです。

パネルディスカッション

働き盛り世代・事業所の結集をめざして

今回の活動者会議では、次世代の組合・分会づくりに向けた討論の新しい試みとして、「働き盛り世代・事業所の結集をめざして」をテーマに組合員6人によるパネルディスカッションを実施しました。討論の概要を紹介します。

パネリスト

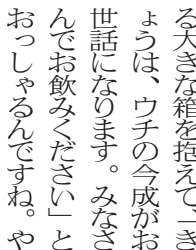
- 「分会役員から」岡嶋明和さん(中村分会分会長)
- 豊原孝仁さん(石神井分会執行委員)
- 「働き盛り世代から」中山千里さん(田柄分会執行委員)
- 今成辰夫さん(学園分会執行委員)
- 「分会内事業主から」小谷昭和さん(早宮分会執行委員)
- 齋藤志安さん(富士見台分会事業所対策副委員)
- 「コーディネーター」佐藤大地書記次長

突然の組合脱退

「パネルディスカッション」は、分会・組合活動に積極的に取り組んできて、このパネルディスカッションにも参加予定だった働き盛り世代の組合員が、突然組合を脱退してしまつた話題から始まりました。

佐藤書記次長 分会が世話焼きとして、後継者対策部長として活躍していました。そこから徐々にもあれもこれも頼る断れない性格で、子育て、自分の時間が削げなくなっていく。そのタイミングで外事業所に雇用され組合を脱退してしまつた。本人からは、分会の皆さんにはお世話になった、後継者対策部長の同世代とのつながりは楽しかったけど、組合から離れて家族との時間や自分の時間が持てるようになることが嬉しいし、清々しく話されてしまつた。

まず、分会役員さんには聞きません。若手の有様は気がかけていた仲間が組合から離れてしまつた経験があると思います。



豊原さん いまの後継者対策部長の話、私も個人的に話をしました。組合に戻れる時期が来れば、もう一度加入してねって声をかけましたけど、断れない性格で、子育て、自分の時間が削げなくなっていく。そのタイミングで外事業所に雇用され組合を脱退してしまつた。本人からは、分会の皆さんにはお世話になった、後継者対策部長の同世代とのつながりは楽しかったけど、組合から離れて家族との時間や自分の時間が持てるようになることが嬉しいし、清々しく話されてしまつた。

組合活動・役員を引き受けた想い

佐藤書記次長 いま、分会役員の視点で親心、そういうところも大事だとお話がありました。次に働き盛り世代に、なぜ「組合活動に参加したのか」を聞いてみましよう。

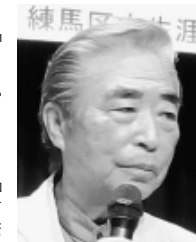


中山さん 僕は他支部から練馬支部に来て初めて、東京土建が労働組合としての活動をしている

者が初めて参加する群会議には必ず組織部長も出席し、会議後にマンツーマンで、納入時の注意事項や、組合の綱領・規約等を説明。時間をかけて寄り添います。2回目以降は群長を中心にフォローし、課題があれば分会全体で共有。一人だけで悩まず、決して無理をさせません。

働き盛り世代への世話焼き活動を柱に地道な分会・群づくりは山あり谷あり

谷原台分会 組織部長 植竹 明さん



「もう、うちの『分会』は空室『分解』だ」と、最悪のシナリオが頭をよぎったことは何度も...

ともて大事なことだと思つています。岡嶋さん 学園分会の経験報告で、今成さんが執行委員を引き受けた話がありました。思い出したのが、去年のソフトボール大会です。うちの分会は4人で一人参加の後継者部長たちと合同チームで参加しました。一試合終わって、ひよこり学園分会の追田分会長代理がいらつしゃつたんです。暑い中、凍らせた飲み物がいっぱい入っている大きな箱を抱えて、「きょうは、ウチの今成がお世話になりました。みなさんでお飲みください」とおっしゃるんですね。やっぱり分会の代表として、このぐらいの資質がないとできないんじゃないかなと、ひよこりに感激しました。



佐藤書記次長 では、今成さん。学園分会の方々が「今成さん、今成さん、みたいになつてくれるの、自分としてはどう感じているのか、率直なところを聞いてみたいと思います。」



今成さん 執行委員になったのは、そもそも執行委員が何をやるかわからなくて、いざ引き受けたのが実情です。断れない人、というのが自分なのかなとあるかなと、脱退した彼と違って、自分上の子が今年社会人になって、下の子も大学生になって、ある程度子育てが終了して、その手が使えなくなった(笑)。

佐藤書記次長 素直なお話、ありがとうございます。でも、そういう話ができることは、余裕がありますし、役員を喜んでくれるなど改めて感じました。

次世代につながるべきま。フレッシュャーを感じるもの、いつも張り詰めていたのが、いまは、またそんな姿を見れば誰も役員になりません。

働き盛り世代への世話焼き活動を柱に地道な分会・群づくりは山あり谷あり

谷原台分会 組織部長 植竹 明さん

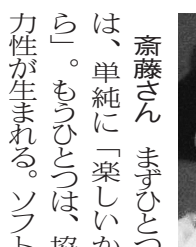
「もう、うちの『分会』は空室『分解』だ」と、最悪のシナリオが頭をよぎったことは何度も...

ともて大事なことだと思つています。岡嶋さん 学園分会の経験報告で、今成さんが執行委員を引き受けた話がありました。思い出したのが、去年のソフトボール大会です。うちの分会は4人で一人参加の後継者部長たちと合同チームで参加しました。一試合終わって、ひよこり学園分会の追田分会長代理がいらつしゃつたんです。暑い中、凍らせた飲み物がいっぱい入っている大きな箱を抱えて、「きょうは、ウチの今成がお世話になりました。みなさんでお飲みください」とおっしゃるんですね。やっぱり分会の代表として、このぐらいの資質がないとできないんじゃないかなと、ひよこりに感激しました。

ともて大事なことだと思つています。岡嶋さん 学園分会の経験報告で、今成さんが執行委員を引き受けた話がありました。思い出したのが、去年のソフトボール大会です。うちの分会は4人で一人参加の後継者部長たちと合同チームで参加しました。一試合終わって、ひよこり学園分会の追田分会長代理がいらつしゃつたんです。暑い中、凍らせた飲み物がいっぱい入っている大きな箱を抱えて、「きょうは、ウチの今成がお世話になりました。みなさんでお飲みください」とおっしゃるんですね。やっぱり分会の代表として、このぐらいの資質がないとできないんじゃないかなと、ひよこりに感激しました。

ともて大事なことだと思つています。岡嶋さん 学園分会の経験報告で、今成さんが執行委員を引き受けた話がありました。思い出したのが、去年のソフトボール大会です。うちの分会は4人で一人参加の後継者部長たちと合同チームで参加しました。一試合終わって、ひよこり学園分会の追田分会長代理がいらつしゃつたんです。暑い中、凍らせた飲み物がいっぱい入っている大きな箱を抱えて、「きょうは、ウチの今成がお世話になりました。みなさんでお飲みください」とおっしゃるんですね。やっぱり分会の代表として、このぐらいの資質がないとできないんじゃないかなと、ひよこりに感激しました。

佐藤書記次長 では、今成さん。学園分会の方々が「今成さん、今成さん、みたいになつてくれるの、自分としてはどう感じているのか、率直なところを聞いてみたいと思います。」



今成さん 執行委員になったのは、そもそも執行委員が何をやるかわからなくて、いざ引き受けたのが実情です。断れない人、というのが自分なのかなとあるかなと、脱退した彼と違って、自分上の子が今年社会人になって、下の子も大学生になって、ある程度子育てが終了して、その手が使えなくなった(笑)。

佐藤書記次長 素直なお話、ありがとうございます。でも、そういう話ができることは、余裕がありますし、役員を喜んでくれるなど改めて感じました。

所での「合同群会議」に切り替えたことで、組合員一人ひとりの「見える化」につながり、他員の仲間と対話できるようなになりました。次は、「出て来られていないだけで、たくさん存在する」働き盛り世代や後継者層の仲間の洗い出しと世話焼き活動です。群会議では、仕事からプライベートの話題、そのフレッシュな仲間をもつ二回成長させる契機が、昨秋の「中間決起レクリエーション」のさすな駄臣への参加でした。「分会の代表として頼む」と二人ひとりで説得にまわり、若手世代の参加につながりました。

働き盛り世代への世話焼き活動を柱に地道な分会・群づくりは山あり谷あり

谷原台分会 組織部長 植竹 明さん

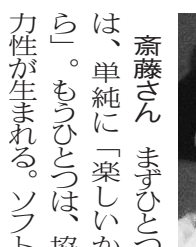
「もう、うちの『分会』は空室『分解』だ」と、最悪のシナリオが頭をよぎったことは何度も...

ともて大事なことだと思つています。岡嶋さん 学園分会の経験報告で、今成さんが執行委員を引き受けた話がありました。思い出したのが、去年のソフトボール大会です。うちの分会は4人で一人参加の後継者部長たちと合同チームで参加しました。一試合終わって、ひよこり学園分会の追田分会長代理がいらつしゃつたんです。暑い中、凍らせた飲み物がいっぱい入っている大きな箱を抱えて、「きょうは、ウチの今成がお世話になりました。みなさんでお飲みください」とおっしゃるんですね。やっぱり分会の代表として、このぐらいの資質がないとできないんじゃないかなと、ひよこりに感激しました。

ともて大事なことだと思つています。岡嶋さん 学園分会の経験報告で、今成さんが執行委員を引き受けた話がありました。思い出したのが、去年のソフトボール大会です。うちの分会は4人で一人参加の後継者部長たちと合同チームで参加しました。一試合終わって、ひよこり学園分会の追田分会長代理がいらつしゃつたんです。暑い中、凍らせた飲み物がいっぱい入っている大きな箱を抱えて、「きょうは、ウチの今成がお世話になりました。みなさんでお飲みください」とおっしゃるんですね。やっぱり分会の代表として、このぐらいの資質がないとできないんじゃないかなと、ひよこりに感激しました。

ともて大事なことだと思つています。岡嶋さん 学園分会の経験報告で、今成さんが執行委員を引き受けた話がありました。思い出したのが、去年のソフトボール大会です。うちの分会は4人で一人参加の後継者部長たちと合同チームで参加しました。一試合終わって、ひよこり学園分会の追田分会長代理がいらつしゃつたんです。暑い中、凍らせた飲み物がいっぱい入っている大きな箱を抱えて、「きょうは、ウチの今成がお世話になりました。みなさんでお飲みください」とおっしゃるんですね。やっぱり分会の代表として、このぐらいの資質がないとできないんじゃないかなと、ひよこりに感激しました。

佐藤書記次長 同じ考えの方々をぜひ一人でも多く探して、一緒にサクションを起こす。そういう行事あるんだ。ちょっと参加していいかな」といっつては、平日頃話しています。



佐藤書記次長 同じ考えの方々をぜひ一人でも多く探して、一緒にサクションを起こす。そういう行事あるんだ。ちょっと参加していいかな」といっつては、平日頃話しています。

佐藤書記次長 同じ考えの方々をぜひ一人でも多く探して、一緒にサクションを起こす。そういう行事あるんだ。ちょっと参加していいかな」といっつては、平日頃話しています。



盛り世代の仲間が奮闘し、まっすぐ、試練は続きまつてくれました。今年7月の分会対抗ソフトボール大会にも9人の働き盛り世代が揃いました。「大変な時を仲間を頼り、一緒考え、みんな乗りこえるを合言葉に、これからも分会の仲間を待っています。一言、これからは分会員が突然組合を脱退。さくら、高輪の群会議が年度の途中で役を退いてしまいました。」

分会行事に社長・従業員みんなで参加

富士見台分会 後継者対策部長 武石 誠さん

「建設業界や仕事の話は組合として重要。これは今後やっていくには、いろいろな人が乗っかって、どこかを支える機会を設定したい。」(石神井)

「働きの世代から」 意外と若い人たちが乗っかって、どこかを支える機会を設定したい。」(石神井)

「働きの世代から」 意外と若い人たちが乗っかって、どこかを支える機会を設定したい。」(石神井)

「働きの世代から」 意外と若い人たちが乗っかって、どこかを支える機会を設定したい。」(石神井)

「働きの世代から」 意外と若い人たちが乗っかって、どこかを支える機会を設定したい。」(石神井)



分科会では熱いグループ討論も

活動者会議に参加した仲間の感想から

●基調報告につ

「建設業界や仕事の話は組合として重要。これは今後やっていくには、いろいろな人が乗っかって、どこかを支える機会を設定したい。」(石神井)

●分会経験報告について

「働きの世代から」 意外と若い人たちが乗っかって、どこかを支える機会を設定したい。」(石神井)

んなを参加。社長は焼きそば、従業員は工作や射的のコーナーを担当しました。

当日は、早朝から土曜降りの雨でしたが、中止かと思っ確認の連絡を入れたこと、10時からにはほむからと、先輩の方々も6時前から集まって準備を始めていきました。9時すぎぐらいには雨も弱くなり、開始前にもかかわらず、近所の方々が集まってきました。その後早研ぎだけでも約100人。子どもたちの工作・ゲームが大変で、夕方の片付けの時まで並んで楽しんでいました。

「働きの世代から」 意外と若い人たちが乗っかって、どこかを支える機会を設定したい。」(石神井)

「働きの世代から」 意外と若い人たちが乗っかって、どこかを支える機会を設定したい。」(石神井)

「働きの世代から」 意外と若い人たちが乗っかって、どこかを支える機会を設定したい。」(石神井)

「働きの世代から」 意外と若い人たちが乗っかって、どこかを支える機会を設定したい。」(石神井)

「働きの世代から」 意外と若い人たちが乗っかって、どこかを支える機会を設定したい。」(石神井)

「働きの世代から」 意外と若い人たちが乗っかって、どこかを支える機会を設定したい。」(石神井)

「働きの世代から」 意外と若い人たちが乗っかって、どこかを支える機会を設定したい。」(石神井)

「働きの世代から」 意外と若い人たちが乗っかって、どこかを支える機会を設定したい。」(石神井)

「働きの世代から」 意外と若い人たちが乗っかって、どこかを支える機会を設定したい。」(石神井)

「働きの世代から」 意外と若い人たちが乗っかって、どこかを支える機会を設定したい。」(石神井)

「働きの世代から」 意外と若い人たちが乗っかって、どこかを支える機会を設定したい。」(石神井)

「働きの世代から」 意外と若い人たちが乗っかって、どこかを支える機会を設定したい。」(石神井)

「働きの世代から」 意外と若い人たちが乗っかって、どこかを支える機会を設定したい。」(石神井)

「働きの世代から」 意外と若い人たちが乗っかって、どこかを支える機会を設定したい。」(石神井)

「地引網&BBQ交流バスツアー」



後継者世代の仲間と家族106人が集う

8月6日に実施した夏の後継者企画「地引網&海鮮BBQ交流バスツアー」は、21分會から47組106人の組合員と家族が参加しました。

多田良海岸に到着後、みんなで楽しんだ地引網では、漁師が手に取り説明する大漁の魚に子どもたちは目を輝かせました。子ども向け企画「ビーチ宝探し」では乳児から中学生まで無我夢中で宝を掘り起こし、掘り当てた水鉄砲や水風船を使つての水遊びでは分會後継者対策部長が子どもたちから狙い撃ちにされ、走り回る姿も。即席のビーチフラッグ対決では、家族参加の高校生同士によるガチンコ対決や、小学生の姉妹対決で100人を超える参加者が一体感に包まれました。

七輪を囲み乾杯の合図でスタートした昼食の海鮮BBQ交流では、後継者対策部の進行で参加者から一人一言発言をユーモアたっぷりに仕切るなど、分會の垣根を越えた交流がすすみました。

参加者からは、「子どもも楽しめる企画が盛りだくさんで、とても素敵だった」、「家族ぐるみで楽しめる組合行事に今後も参加したい」といった感想のほか、「運営してくれた後継者対策部の皆さんのおかげで安全に楽しく過ごすことができました」と後継者対策部にねぎらいの言葉も並ぶなど、文字どおり後継者対策部が一丸となって成功をおさめた企画になりました。

シニア友の会

支部シニア友の会結成20周年記念行事を8月20日、練馬支部会館でひらき、21分會と来賓を含め全体で49人が参加しました。

午前中の記念式典では、佐渡会長のあいさつにつづき、来賓として福岡委員長があいさつ。奥澤事務局長が20周年記念誌の内容を紹介しながらシニア友の会20年のあゆみを振り返りました。つづいて、「人生100年時代と終活について」終わりに備えて生き生きと生きる」と題して、佐々木

朝雄さん(株)トータル保険サービス・1級ファイナンシャル・プランニング技能士)が講演しました。

午後の祝賀会では、深澤副会長の音頭で乾杯。テール紹介の後、各テーブルからシニア20周年をふりかえっての発言が続ぎ、シニア友の会の運動への共感がひろがりました。ピンゴ大会などで盛り上がったあ

20周年を祝い新たな歩みへ



核兵器禁止の声と運動をさらに大きく

長崎で開催された今年の原水禁世界大会。台風の影響で日程が短縮されましたが、練馬代表団の一員として参加した3人の組合員が支部活動者会議で参加報告をおこないました。報告要旨を掲載します。

原水禁2023年世界大会・長崎に初めて参加して
上石神井分會 岡上 誠さん



8月7日の開会総会で、各国、各界からの挨拶、報告を聞いて、改めて戦争と核兵器と原発事故と人の恐ろしさ、平和への思いを認識し、危機感と活動の必要性を感じました。

長崎市主催の平和祈念式典は、台風6号の影響で会場が平和公園から市内の屋内施設「出島メッセ」に代わり、参列者も関係者のみとなりました。世界大会も予定が変わり、閉会総会が前倒しで8日の午後に変更。そのため、練馬からの参加者は急ぎよ、7日夜に長崎原爆資料館を見学することに決め、閉館間際の19時半に入り、20時まで駆け足で見えました。

ました。岸田政権の大軍拡と増税をめぐっては「防衛費」が今後5年間で43兆円といわれていますが、実際は60兆円にも上る大軍拡計画ということとを学びました。これでは国を守る前に国民生活は破綻、未来の平和な暮らしは護れないと思いましたが、市民と諸国政府の共同を促進させるためには、これからは何をやるべきか等も議論。地道に粘り強く声を上げていくことの大切さを改めて肌で感じることができました。

大会の合間に長崎市内を巡りました。二男はその時の思い出を文章にしています。

「実際に被爆地へ足を運び、長崎原爆資料館で被爆した人の爆風で破れた服や、被爆した柱時計が指す、永遠の11時2分」、きのこ雲の映像、米軍が原爆を投下するまでの映像を見て、核の脅威を改めて学ぶことができました。平和公園近くの防空壕跡も見学し、こんな真つ暗なところで身を守らなければならぬ、引き続き草の根運動で「核兵器廃絶」を唱えて進みましょう。「NONO WAR」「NONO KES」

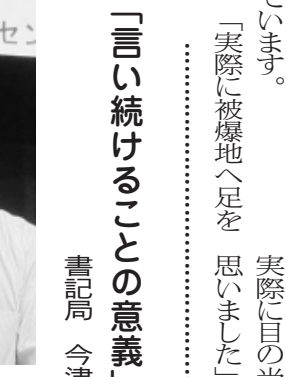
その後平和公園に行き、千羽鶴を納めました。夜の公園は、昼と違った雰囲気です。

分科会終了後の14時から閉会総会では、各国や被爆者からのメッセージ、戦争の体験談、平和への訴えや核兵器禁止条約の必要性、各宣言がなされました。

困気が胸にくるものがありました。

次日は分科会。私は第5分科会の「大軍拡と平和・くらし」に参加しました。

皆様のお陰で貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございます。



「『三つ続けるべし』の意義」
書記局 今津 佑介さん

は触れたものの、核兵器の開発や保有、使用等の禁止を定めた「核兵器禁止条約」には一切言及せず。核兵器は地球上に害悪しかもたらさない。この当たり前のことを言い続けるなければ地域も、日本も、世界も変わりません。政治の主体は一人ひとりの市民です。権力者が核禁条約に消極姿勢をとり続けるなら、市民も参加を粘り強く訴え続けなければなりません。原水爆禁止世界大会は初心を思い出させてくれ、核廃絶をはじめ、各種平和活動への意欲がさらに高まりました。

「親子で学び、考えた長崎の夏」



南事業所分會 中澤 裕美さん

この大会に親子そろって参加できることを望んでいました。

16年間長崎市政をリードした田上氏が引退し、被爆2世の鈴木新市長はどんなメッセージを発信するか、注目していました。ところが、7日の開会総会で鈴木氏は、核の脅威や、廃絶の必要性に

息子にもぜひ学んでもらえ、核兵器のない世界を求め、世論をひろげたいと、この大会に親子そろって参加できることを望んでいました。

世界大会・長崎大会に9歳の二男(自費参加)と学びに行かせて頂きました。私は中学3年生で初めて被爆地広島へ学びに行き、戦争の怖さを実感。息子にもぜひ学んでもら